

# 経営比較分析表

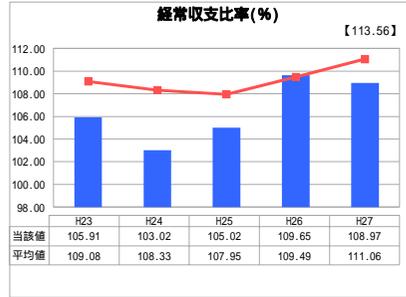
岡山県 里庄町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A7
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	88.29	93.81	3,402

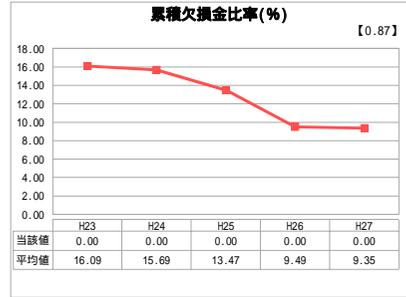
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,159	12.23	912.43
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
10,446	12.23	854.13

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

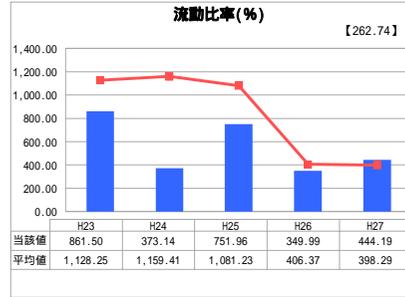
## 1. 経営の健全性・効率性



「経常損益」



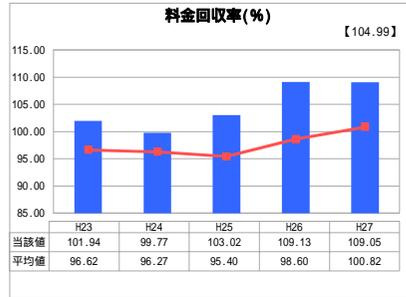
「累積欠損」



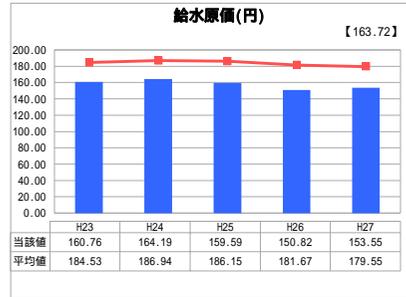
「支払能力」



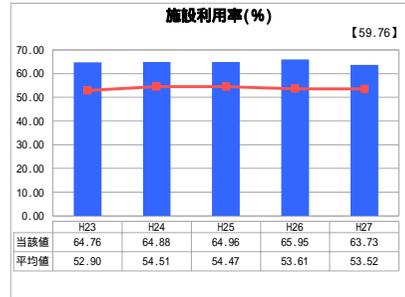
「債務残高」



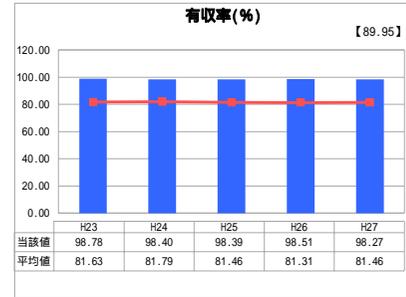
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

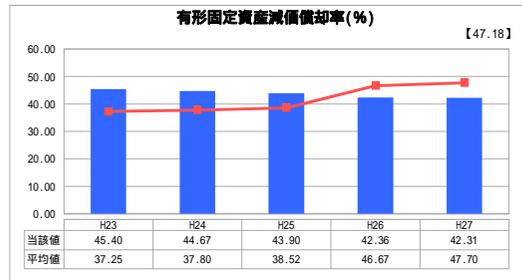


「施設の効率性」

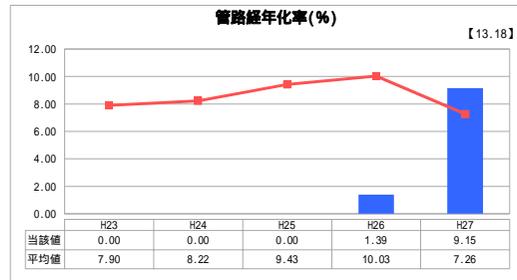


「供給した配水量の効率性」

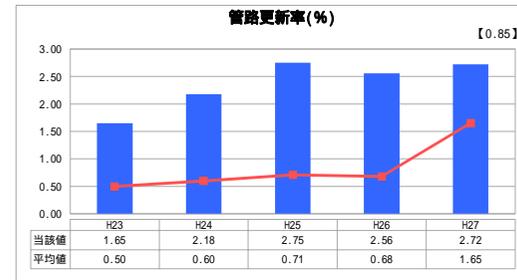
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金がなく、経常収支比率が100%を超えているため、経営状況は良好と言える。料金回収率も100%を超えており、料金収入によって全ての費用を賄うことができ、経営状態は健全と言える。漏水対策に力を注いでいるため、有収率は安定的に98%を超える高い数値を維持することができている。新たな起債はしていないため、企業債残高対給水収益比率は年々減少している。この経営状況を維持していき、将来の耐震化工事等に備えていく。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は減少傾向であるが、管路経年化率は高くなっている。一方で、管路更新率は比較的高い数値となっている。これは、管路の更新を下水道工事や道路整備工事に合わせて計画的に行っているためと考えられる。

## 全体総括

昭和47年の給水開始から40年以上が経過し、管路も老朽化してきている。そのため、下水道工事等に合わせた管路の更新を行い、老朽化に対応している。また、今後、必要となる大規模団地の布設替工事や配水池の耐震化工事に対応するために、更なる経費節減に努め、財源を確保し、計画的に事業を進めていきたい。